

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

FUTURE DESIGN

ELEVATOR NEWS

安全で快適なエレベーターの未来をデザインする

2013

vol. 34

まちづくり・乗り物・学びから
見つけた新しい金沢



まるっと満喫！
ふらりと金沢物語

特集 ● 交通と都市の未来形

ユーザー訪問 ● 乗り心地、いかがですか？
Vol.3 金沢工業大学



東芝エレベータ株式会社
TOSHIBA ELEVATOR AND BUILDING SYSTEMS CORPORATION

eco スタイル



まるっと満喫！
ふらり金沢物語

まちづくり・乗り物・学びから 見つけた新しい金沢

加賀百万石の城下町として栄え、
さまざまな歴史的建造物が今に残る金沢。
そんな金沢が、2015年春の北陸新幹線の開業を機に、
現在急激に姿を変えつつある。
歴史と伝統だけにとどまらない金沢の魅力とは何か。
この特集では、石川県加賀市出身のライター・西出哲子氏が、
金沢在住の建築家・吉村寿博氏の案内で金沢旧市街を
気の向くままに巡った。
そのなかで見つけた新しい金沢の魅力を、
まちづくり・乗り物・学びの切り口からお届けしよう。

Ishikawa
Kanazawa



まちづくり
city planning

「まちづくり」には、
行政側からのアプローチだけでなく、
市民側からのアプローチも含めてみた。

乗り物
vehicle

「乗り物」には、金沢市内の移動に利用できる
便利な乗り物の数々を集めてみた。

学び
learning

「学び」には、金沢の伝統工芸や、
金沢でしか体験できない
学びの場を含めてみた。

私たちが
レポートします



吉村 寿博 ● 建築家
石川県金沢市を拠点に活動している建築家。
1969年生まれ。横浜国立大学大学院、妹島
和世建築設計事務所/SANAAを経て、吉村
寿博建築設計事務所を主宰。金沢21世紀美術
館の建設時にはプロジェクトリーダーを務めた。

西出 哲子 ● ライター
石川県加賀市出身のライター。大手総合電機
メーカーで広報・広告業務を経験後、フリー
ライターに転身。NTTデータの広報誌の連載
や日本全国のサービス業の取材のほか、アカ
デミックな記事や文化人の取材を得意とする。



start
JR金沢駅



1 安江町周辺

東別院の門前町だったという金澤表参道商店街には、町家を利用した個性的なギャラリーやカフェが点在。こんなアートな魚も出迎えてくれる。



2

武蔵ヶ辻交差点

まちなかにエレベーター発見！
武蔵ヶ辻交差点の地下道「クロスピア」につながっている。地下道には、オブジェやひと休みできるスペースも。



3

近江町市場裏「まちなり」ポート

「まちなり」ポートを発見！
ICカードをかざすだけで自転車を借りられ、返却も自転車を戻すだけという手軽さ。



まるっと満喫！
ふらり金沢物語

古さと新しさが共存するまち

JR金沢駅に始まり、昔から芸のまちとして知られるひがし茶屋街で終わった、ふらり金沢巡りの旅。少し足を踏み出してみれば、金沢の新しい魅力を至るところで発見できるはずだ。



新たに生まれるにぎわいの場

2015年の北陸新幹線の開通を控える金沢。これを機にまちを活性化させることは、金沢の大きな課題のひとつだ。金沢市は現在、「人・モノ・情報が行き交う世界の『交流拠点都市』の実現」を目標に掲げる。そのために、「インフラの整備」、「歴史文化遺産の保存」、「中心市街地への都市機能の集中化」、学生も含めた「市民主体でのまちづくり」に取り組んでいる。市がこれらの課題に複合的に取り組んだ具体例が、2012年に金沢の中心部・片町にオープンした金沢学生のまち市民交流館だ。交流館は、古い金澤町家を改修した学生の家と併設の交流ホールで構成され、学生・市民・行政が、まちづくりの施策の協議やイベントなどを行う場として、活発に利用されている。ふらり金沢巡りの旅を案内してくれた吉村寿博氏は、「にぎわいといえば、最近、商業地・香林坊から兼六園を結ぶエリアに、新しい観光スポットが増えています」と語る。実際、金沢には、金沢21世紀美術館や鈴木大拙館、旧県庁をリニューアルした複合施設・しいのき迎賓館などが、近年相次いで完成した。これ

学生・市民・行政でつくる、これからの金沢



柿本 紀希氏
金沢市市民局
市民協働推進課
主査



須貝 友貴氏
金沢学院大学
文学部4年

金沢では、昭和40年代に大学の郊外移転が相次ぎ、まちの活気や、学生と市民のつながりが薄れたといわれている。そんな状況に危機感を持った金沢市は、2010年に「学生のまち推進条例(略称)」を施行。学生・市民・市が一体となって金沢を盛り立てるために、まちなか学生まつり、まちなか学生夜塾、CANAZAWA CAMPUS SUMMITなど、数々のプロジェクトを推進している。

市役所でその職務を担う柿本紀希氏は、「学都の歴史と文化を取り戻し、学生にも、その一員としてまちを盛り上げていってほ

しい。学生が自立したまちづくり活動を行えるよう、日々一緒に取り組んでいます」と語る。

一方、新潟県出身で、学生メンバーの中心的存在の須貝友貴氏は「他大学の学生や市民の方々との交流はとても楽しい。ほかの学生にもこの気持ちを伝えたくて、金沢の魅力を紹介するイベントを計画中です」と、今後も積極的にプロジェクトに参加する意向だという。

学生の創造力とエネルギーが加わり、金沢は新たな進化を始めたところだ。



Japan Tent (事務局は北國新聞社内)

1998年から、毎年石川県で開催されている国際交流イベント。日本全国から留学生を招き、伝統文化に触れるプログラムなどを開催している。「地方からの国際化」の先駆的存在だ。

写真提供：北國新聞社

4



金沢学生のまち市民交流館

交流ホールは、古い料亭の部材を再利用しているため、新築ながら重厚感あふれる雰囲気漂う。学生や市民団体のさまざまな活動に利用されている人気スポットだ。

5

7

金沢市役所

北陸新幹線の金沢開業を機に、金沢市役所では、金沢の魅力を高める施策に数多く取り組んでいる。古い町名の復活もその試みのひとつで、全国的にも珍しい活動だ。



全国に先駆けて
歴史的景観の保存
に取り組みました。

中心市街地を
さらに活性化
させていきたい
ですね。



土田 昌伯氏
金沢市役所
都市整備局
都市計画課
計画グループ長



池上 三宏氏
金沢市役所
都市整備局
都市計画課
主査

6

香林坊

金沢にはたくさんのバスがあり、乗りこなすのは至難の技？
特に、武蔵ヶ辻から香林坊を結ぶ
百万石通りはバスのメッカだ。



により、「新たなにぎわいの場が生まれ、人の動線が変化しているのが面白い」という。バスとレンタサイクルが充実

そんな吉村氏が金沢巡りでお勧めする移動手段は、徒歩、バス、そして自転車だ。

「金沢にはざっと数えても5種類ほどのバスが走っていますし、レンタサイクルも充実しています。大通りや離れた場所にはバスで、川沿いなど景色のいい平地は自転車、城下町ならではの路地や坂道などは徒歩で移動するのがお勧めです」

金沢のバスには、路線バスのほか、観光周遊バス、駅と繁華街を結ぶバス、細い路地を走り、市民や観光客の気兼ねな足になっているバスなどがあり、用途や行き先で使い分けられる。料金も、周遊バスなら1回1000〜2000円とリーズナブルだ。

エコや二次交通の充実という観点から、金沢ではレンタサイクルも増えている。代表的なものは、金沢市の「まちなか」と、NPO法人金沢クリエティブーツリズム推進機構の「チャリdeアート」だ。「まちなか」は、フランス・リヨンのコミュニティサイクル



チャリdeアート

コンセプトは「アートなチャリでアートを巡る」。色鮮やかなオリジナル自転車は、アートなまち・金沢ならではの。

8

新堅町商店街

「骨董通り」として知られる商店街。近年は、センスのいいギャラリーや雑貨店、カフェなどが集まる、おしゃれスポットだ。



9



10

中村記念美術館～緑の小径～鈴木大拙館

中村記念美術館の裏手には2つの小径がある。そのうちの1つ、緑の小径の先には、鈴木大拙館の哲学的な静けさが待っている。



11

白鳥路～お堀通り～百万石通り

兼六園や金沢城公園からほど近い白鳥路は、自転車で走るのにもピッタリ！ 自然のなかに彫刻が並ぶ遊歩道には芸術の香りが漂う。



まる
らり
っと
金沢
満喫
物語

まち
づくり

乗物

学び

に做ったものだ。市街地に18カ所のサイクルポートがあり、どこで借りてどこで返却しても問題ない。30分以内はどこかのポートに返却して乗り継げば、1日使っても2000円で済む。一方、「チャリdeアート」のターミナルは現在4カ所あり、3時間500円、1日1000円という定額料金で、カラフルでおしゃれな自転車を利用できる。

バスで、自転車で、徒歩で、金沢の旅は、セルフコーディネートが自由自在なのだ。

学びが息づくまち

学都としても名高い金沢。実際、人口10万人に占める大学、短大等の高等教育機関数は、石川県の場合全国3位（2012年度）と非常に高い。

しかし、金沢で学べるのは、いわゆる勉学だけではない。伝統の技を伝える専門機関や、市民と観光客が伝統工芸や伝統芸能、多彩な食文化を体験できる場も数多く存在する。

なかでもユニークなのは、1997年に金沢市が設立した金沢市民芸術村（詳しくは9ページ参照）だ。ドラマ工房やアート工房など、市民の芸術活動を支援する施設があるだけでなく、石工や左官など、



ひがし茶屋街

金沢で「焙じ茶」といえば、茎を焙じた「棒茶」のこと。ひがし茶屋街にある茶房一笑では、町家の落ち着いた雰囲気の中で加賀棒茶と季節の上生菓子を堪能できる。心癒されたい人にはうってつけの空間だ。



水野 雅男氏
法政大学 現代福祉学部
福祉コミュニティ学科
教授

金沢のアートを、市民プロジェクトで盛り立てる

c o l u m n

伝統工芸で知られる金沢は、現代アートの分野でも他に引けを取らない。歴史ある金沢美術工芸大学は、毎年多くの作家を輩出し、現代アートの拠点・金沢21世紀美術館は、国内外から注目を集めている。

そんな金沢で、作家を育て、アートスペース同士をつなぎ、アートツアーを創出するなど、複数のプロジェクトを展開しているのが水野雅男氏だ。

「作家の卵たちが、のびのびと創作活動を行える場所をつくりたかった。そこで、古い醤油蔵や町家をアトリエに改修したんです。また、金沢の文化芸術の育成を目的に設立したNPO法人金沢アートグミでは、作家のアトリエや建築を訪問するガイド

ツアーや、アートスポットを巡るツアーを企画提供する金沢クリエイティブツーリズムを推進しています。アートスポット巡りにピッタリなチャリdeアートも、アートグミが母体となって事業化しているのですよ」

点で活動する作家たちを、市民プロジェクトが面で支えている。金沢は現代アートの分野でも注目だ。



金沢アートグミの拠点で、ギャラリーがある旧北國銀行武蔵ヶ辻支店も、歴史あるアートな建物だ。

今回のささやかな旅を案内してくれた吉村氏は、実は、金沢出身ではない。仕事で金沢を訪れ、その面白さに惚れ込んで移住してきた方だ。

「犀川と浅野川に挟まれた小さな区画に、人や場所などの魅力がギュッと詰まっているのが金沢です。まちな出ると、伝統工芸や現代アートなどに携わったり、始めようとしている面白い人に、日常的に会えてしまう。この小さいながらも大きな可能性を秘めたまちの魅力に引き込まれて、金沢に住むようになったのです」

歴史と伝統に新しさと未来が重なり合う金沢は、これからはますます面白くなるだろう。



森八／金沢菓子木型美術館

日本三大銘菓のひとつ「長生殿」を生んだ、金沢を代表する和菓子の老舗・森八。その2階には、藩政期から伝わる菓子木型を1000点以上展示している美術館がある。幻想的で一見の価値あり！



車道に「自転車通行レーン」のマークを発見！

金沢の伝統の手仕事を次世代に伝えることを目的に設立された金沢職人大学校も併設されている。ここには、手仕事によるものづくりの技能、歴史や文化、建築技術などの知識を未来へ伝える学科に加え、職人文化への理解や後継者の発掘・育成を目的とする、市民や子ども向けの学びのコースも用意されているのだ。

新たな芸術が生まれる場に、歴史と伝統を伝える場も同時に存在する。まさに、伝統と創造が共存する金沢らしい学びの場といえるだろう。



まるっと満喫！
ふらり金沢物語

まわり乗り
学び

金箔貼りを体験！

金沢は金箔生産のメッカで、そのシェアは99%を占める。「これぞ金沢！」を紹介するために、今回は、老舗の今井金箔で体験した箔貼りをレポートしよう！

金箔の特性を知る

体験コースの冒頭で、金箔の厚みが1万分の1mmしかないと教えてくれた。金箔を貼った眼鏡で覗くと、景色が透けて見えるほどだ。



始める前に

「光が青く見えて『不思議〜！』」



金箔はどんな味がする!?!
今井金箔では、体験コースの冒頭で金箔を実際に触ったり、食べたりすることができる。なかなか体験できないことなので、金沢を訪れた折には、ぜひお試しあれ。

start



①模様を選ぶ

今回はマイバッグをつくってみた。バッグの色を選んだら、次は金箔の模様選び。加賀友禅にも使われた「加賀小紋」が素敵！



②金箔を貼る

接着剤を塗ったあと、接着剤が乾かないうちに金箔を貼る。特殊な紙に引つけた金箔を、位置を見定めて慎重に置く。



③金箔を払い落とす

金箔を定着させるため、いったん乾燥。余分な金箔を刷毛で払っていく。かなりしっかり払っても大丈夫だ。



④完成！

防水スプレーをかけたら完成！ マイバッグは、45分ほどで完成した。メニューも豊富なので、金沢散策の折には、ぜひお試しあれ。



金沢を彩る 最新の文化発信拠点

金沢随一の繁華街・香林坊には、近年、新しい文化の発信拠点が2つ相次いで誕生した。北國新聞赤羽ホールと香林坊ラモーダ。

北國新聞赤羽ホールは2008年に開館した芸術文化施設で、演劇などの多彩なイベントを開催できる。

一方、香林坊ラモーダは2012年にオープンした大型複合ビルで、オープンスタジオや人気ショップなどが入居している。いずれの建物でも、東芝エレベーター製のエレベーターが利用されている。



香林坊ラモーダ
市松模様のガラス壁面が美しい。



北國新聞赤羽ホール
ホールの名称は、北國新聞創刊者で初代社長の赤羽萬次郎氏の名前に由来している。

伝統の上に革新を重ね、 変貌し続けるまち

水野 一郎氏
金沢工業大学 副学長



MIZUNO ICHIRO
1941年生まれ。建築家
東京芸術大学大学院建築学専攻
修了後、榎大谷研究室を経て、金沢
工業大学建築学科助教授に就任。
その後教授を経て2012年より
現職。金沢を中心に、地域の特性
やニーズを踏まえた多くの建築を
手がける。「金沢市民芸術村」「獅子
ワールド館」など受賞歴多数。

歴史が重なる都市、金沢

金沢の都市としての誕生は、日本中に城下町が生まれた戦国時代ですから平均年齢都市なのですが、「古都」や「伝統」というイメージが強いのは、戦国から現代までの各時代の層が今もまちに残り、身近に触れることができるからでしょう。

日本の多くの都市は、明治期に殖産興業の波に乗り、工芸を工業に転換するなど急速に変容しましたが、金沢は産業都市としては発展せず、工芸は伝統工芸として残りました。おかげで空襲の標的から免れ、各時代の層が保たれたのですね。こうした、文化・芸術・建築などのさまざまな分野に歴史的な重層性を持つ点に、金沢らしさがあると思います。

伝統と革新の共存

歴史と伝統が息づく金沢は、反面、常に新しいもの、最先端を追求する都市でもあります。こうした意識は、わが国初の伝統環境保全条例の制定や、ユネスコ創造都市ネットワークのクラフト部門への申請・認定にも表れています。我々建築家はこうした金沢にあって、過去の優れたものをきちんと残し、同時に新たな技術やデザイン、ニーズを汲んで、今の時代の層を重ねていく必要があります。

例えば、2011年に「世界で最も美しい駅」のひとつに選ばれたJR金沢駅東口の「もてなしドーム」。

わが国初のアルミ合金製立体トラスを使用し、強化ガラスと、伝統芸能「加賀宝生」の鼓をイメージした柱を組み合わせ、伝統と革新が共存する金沢を象徴する建築となっています。また、新たなランドマークとなった「金沢21世紀美術館」も、やはり最先端を目指して成功した例です。

新しい金沢をつくる

各時代が重なり合う金沢には、遊び——つまり付加価値を生み出す資源が豊富です。ここに建築やまちづくりのアイデアを散りばめ、遊びにあふれた、豊かで住みよい都市にしていければよいと思っています。

「金沢市民芸術村」は、建築で初めて、1997年度のグッドデザイン賞大賞を受賞しました。市が購入した紡績工場跡地と建物を活用しようと調べてみると、市民や若者の文化・芸術活動を奨励する場所がないことがわかったのです。そこで、会社員や学生など、時間や活動資金に余裕がない利用者のためにも、24時間365日低料金で利用できる施設を提案しました。大賞を受賞できたのは「金沢市民芸術村」全体のスキームも評価されたからです。

2015年春には北陸新幹線が開通します。JR金沢駅の新幹線ホームには、九谷焼や加賀友禅など、伝統工芸32品目を盛り込みます。訪れる人に、加賀百万石の華やかさを感じてもらいたいですね。

魅力的な人々がまちを愛し、 支える

私は東京日本橋の出身ですが、金沢に移り住んで36年になります。金沢は、実は非常に人が面白い。私は人の魅力に惹かれて金沢に来たようなものです。

金沢の経済人は、文化好き、ボランティア好きで、いわゆる旦那衆です。そして、この旦那衆が金沢をとっても愛しているのです。彼らが、まちを流れる用水を守り、古い町名を守り、不景気に苦しむひがし茶屋街を守って、今の金沢につなげました。

金沢は人が何かを持っているまちです。金沢に来たらぜひひとと触れ合い、話をしてください。ほかにはない何かをきっと感じてもらえると思います。



金沢市民芸術村

金沢市が市民の芸術活動の支援を目的に設置した総合文化施設で、旧大和紡績工場の敷地と建物をベースに、レンガ造工場建築群を再生した。水野一郎氏の代表作品のひとつ。



ユーザー訪問

乗り心地、 いかがですか？



公共施設や駅、病院やデパートなど、北から南まで街のさまざまな場所でエレベーターは活躍しています。ここでは、東芝エレベーターのユーザーさまをご紹介します。

導入事例

vol.3

金沢工業大学

学生主役の大学を支える施設や設備

石川県野々市市にメインキャンパスを持つ金沢工業大学は、今注目の大学である。卒業生の就職率はなんと96%以上で、約半数が上場企業、大手企業、公務員に就職。「よく教える大学」「面倒見が良い大学」と評判で、徹底した学修支援を行っている。施設計画もこうした教育方針に従って実施され、エレベーターやエスカレーターが、効率的に配置されている。「学生が居なくなる環境をつくりたい」と語る同大学施設部長の田畑浩数氏に聞いた。

面倒見が良い大学 8年連続でトップ

「大学改革のお手本」とも呼ばれている注目の大学が石川県にある。金沢にほど近い野々市市にメインキャンパス（扇が丘）を置く金沢工業大学だ。

工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部の4学部14学科で構成され、学部学生が約6700名在籍している。

1995年度から改革に取り組む、「学生主役の大学」を掲げ、徹底した学修支援で「教育付加価値日本一の学園」を目指した。

その結果は顕著に現れ、2013年3月卒業生の就職内定率は96.8%に達し、49.

5%が上場企業、大手企業、公務員に就職している。

朝日新聞出版『週刊朝日ムック 大学ランキング』の「学長からの評価」教育分野で8年連続1位（2013年版）、毎日新聞社『サンデー毎日』の調査でも、「面倒見が良い大学」として8年連続でトップとなり、各方面から高い評価を得ている。

教育付加価値で 日本一を目指す

同大学施設部長の田畑浩数氏は、教育の特徴についてこう語る。

「当大学には『高適な人間形成』『深遠な技術革新』『雄大な産学協同』という三大建学綱領があり、それをもとに



田畑 浩数氏

学校法人金沢工業大学
施設部長



23号館(講義棟)エレベーター・2階のりば
同大学では、施設計画時に安全・安心を最優先にしているほか、昇降路をガラス製にすることでエレベーターの構造が外からわかりやすくなっている。

ビジョンや教育方針が決められています。教育のビジョンは人間形成を目的とする教育付加価値日本一で、そのために学生たちの勉学活動のプロセスを重視しています。当大学の学生は授業ごとに多くの課題に取り組むため、1年次には、毎日学業や生活に関する日記のようなもの(ポートフォリオ)を提出させ、教員がコメントを付けて返却しています。どのような優先順位で課題を行っているか、睡眠や食事を規則正しくとっているかなどに関して学生自身の気づきを促すことで、勉学と規則正しい生活を習慣化します」

学生が居たくなる 学内環境を整備

「施設をなるべく長く開けておくことが重要です。我々

は教育目標に則って施設計画を立てますが、基本的には学生が居たくなる環境づくりを目指しています」と田畑氏。
7号館1階には、225席の自習室があり、365日・24時間オープン、年間延べ55万人が利用している。レストランも広々として明るく、テابلには自習用にネット接続環境が備えられている。夜10時まで開いているが、さらに構内で学修を続けたい人は7号館の自習室に移動すればいい。

同大学では入学時から全学生が1台ずつノートパソコンを所持し、あらゆる場所で学修できるようになっている。キャンパス内には約5000カ所の情報コンセントと109カ所の無線LANアクセスポイントが設置されている。また、大学と大学周辺の学生用アパート約260棟を光ケーブルでつなぎ、自宅でも大学のネットワーク環境を利用できる。国内では初の試みだ。

26号館と41号館には、ものづくりを実践できる「夢考房」という教育センターがある。ここには各種工作機械などが完備されており、平日は夜9時まで利用できる。このほかにも同大学の施設の充実ぶりを挙げればきりがなほどだ。

シースルータイプで 学生が構造に興味

2012年9月に完成した23号館は、同大学講義棟群のハブとなる校舎である。そのなかに今般設置したイノベーション&デザインスタジオは、学生一人ひとりの「イノベーション力」を鍛えることを目的とした学修環境で、学生と教職員はもとより、ステークホルダーとの接点を意識した地域・産学・大学間連携等の活動拠点だ。

「チームによる問題発見・解決活動の充実を図り、グローバル人材の育成拠点として活用します」と田畑氏は語る。この23号館には昇降路がガラス製のエレベーターが1台導入された。エレベーターの動く仕組みや構造が外からよくわかるようになっていたのだ。

「シースルーにしたのは学生に機械の内部を見せたかったからです。やはり、構造を理解し、関心を持つことが技術者としての第一歩ですから」

実は8号館では、すでにシースルータイプのエスカレーター18台が稼働している。駆動部がよく見えるので学生が興味を示して内部をのぞき込んでいることもあるという。

エスカレーターで 安全に大量移動

同大学では、メインの扇が丘キャンパスと白山市にある「やつかほりサーチキャンパス」に東芝エレベーター製のエレベーター26台とエスカレーター24台が導入されている。

「エスカレーターは人を大量に効率よく運んでくれます。エスカレーターだからこそ、講義の合間の休み時間が20分間しかなくても、学生は次の教室に移動することができます。エスカレーターの動く音が講義の邪魔にならない

ように、乗る時だけ動く自動運転にしました。エレベーターも、車いすの利用者などバリアフリーを考えると大切な設備ですね」

田畑氏は安全・安心の確保に最も注力しており、新築では当然ながら地震や停電時に最寄り階に緊急着床する最新型を導入している。新築が一段落したら、古い機種のリニューアルも考えたいとのことだ。

シースルーのエスカレーターは、上り4台と下り4台で、それぞれ赤と青に色分けされているが、これも安全対策の一環だという。自動運転で停



止中に利用する際、上りと下りを間違えないようにという配慮だ。もちろん、間違っていると警告ブザーも鳴るようになっている。

「サンダルが挟まれるなどの事故が心配なので、注意を喚起する看板も出しており、今のところ事故はまったくあ



8号館(23号館に隣接する講義棟) エスカレーター

全国でも珍しいシースルーエスカレーター。側面にアクリル板を採用することで、内部の構造が観察しやすくなっている。安全対策の一環で、上りと下りが赤と青で色分けされている。側面のアクリル板とも相まって、赤と青が美しく映える。

学校法人金沢工業大学

テレビの普及に伴う放送技術者の養成を目的に1957年に設立された北陸電波学校を前身とし、65年に大学となった。現在、高専、大学、大学院から構成され、在籍者総数は7800人ほどになる。

石川憲一学長のもと、95年から改革に取り組み、知識伝授型から「知恵の習得による問題発見・解決型」の教育への転換を図っている。そのため、学生同士がチームを組んで問題発見と解決に当たるプロジェクトデザイン教育を導入。学力と同時にコミュニケーションやプレゼンテーションなど人間力の育成にも力を入れている。その成果は卒業生の就職内定率に現れ、2012年度で96.8%となっている。



DATA



23号館エスカレーター

23号館には、講義室が全部で14室もあるため、学生が講義の合間に移動する手段としては、大量輸送が可能で静かなエスカレーターが主に利用されている。



23号館エレベーター・昇降路背面側

学生がエレベーターの仕組みや構造を学修しやすいように、シースルータイプのエレベーターが導入されている。

りません。エレベーターにも
かご室内にすべて監視カメラ
を設置して記録しています」
また、全職員が参加し、消
防署や東芝エレベーターも協力
して定期的にエレベーターを
中心とした防災訓練も行つて
いる。日頃からのメンテナ
ンスも重視している。

レベーターおよびエスカレー
ターは東芝エレベーター製です。
地震やエレベーターの閉じ込
め事故などが起きた時に即座
に対応してもらえらることを期
待しています」
万が一の時も学生の安全の
確保を一番に考えているから
こそ、学生も学業に専念でき
るのだろう。

メーカーの立場から



中林 清治

東芝エレベーター
北陸支店 金沢営業所
シニアフィールドエンジニア

気配りあるメンテナンスで 安全・安心・清潔感を保つ

「エレベーターは平日に
点検し、エスカレーター
は利用の少ない土曜日に
行っています。台数が多
いので、総勢13名のスタ
ッフで、第2・4土曜日に
分担して実施しています。
何より事故を防ぐために、
点検中は隙間なく安全柵
を設置し、大きな音を出
さないように気をつけて
います」
シースルータイプは汚
れが目立ちやすいので、
清掃には気を配っている
という。特に、8号館の

エスカレーターは年に2
回、ガラスと外装パネル
全体の清掃を自発的行
っている。8台もあるの
で、丸1日を要する大が
かりな作業だ。
「学生さんも興味がある
のか、シースルータイプ
の内部を時折のぞいてい
きますね。『もう少し見せ
てください』という学生
さんもうらっしゃいます」
同大学には古い機種か
ら最新型までさまざまな
機種が動いているので、
若手のメンテナンススタ
ッフのスキル養成にも役
立っているという。

計50台の製品が
キャンパス内でフル稼働
金沢工業大学は、本部
のある扇が丘キャンパス
で約19万㎡、やつかほり
サーチキャンパスで約
8万㎡の広さがあり、両
キャンパスをシャトルバ
スでつないでいる。東芝
エレベーターは、1982
年に開館した6号館(ライ
ブラリーセンター)にエレ
ベーターを納入して以来、
数多くの製品を納入し、
現在両キャンパスでエレ
ベーター26台、エスカレ
ーター24台が稼働してい
る。全講義棟にエスカレ

エスカレーターの 外装も自発的に清掃

20年前から同大学のエ
レベーター、エスカレー

ーターが設置されており、
キャンパス内の重要な動
線の確保に役立っている。
学校側が最も重視するメ
ンテナンスは東芝エレベ
ーター北陸支店の金沢営業
所が担当しており、エレ
ベーターは遠隔監視機能
がある機種で3カ月に1
回、ない機種で毎月1回、
エスカレーターは全機種
を毎月1回点検している。

人生の進路を左右した 1本の映画との出会い



幼稚園の時に受けた衝撃

人生の進路を左右した1本の映画——女優・赤間麻里子さんにとって、『ウエスト・サイド物語』は、まさにそういいっついでいい映画だった。

『ウエスト・サイド物語』、日本での公開は1961年末、丸の内ピカデリーをはじめとする映画館で封切られ、大ヒットした。当時、この映画がいかに印象的だったかを示す2つの漫画がある。1つは手塚治虫の『新撰組』。このなかに、新撰組の芹沢鴨が京都の町を酔って歩くシーンが登場する。ページをめくると、町なかの人々全員が整然と並び、皆足を上げて踊り出す。そして、画面中央には「WESTSIDE STORY」の文字。この漫画に影響を受けて、萩尾望都さんは漫画家を目指す

ことになるが、それはまた別の話。もう1つは、やはり手塚治虫に憧れて漫画家になった石ノ森章太郎の『サイボーグ009』。こちらは9人のサイボーグ戦士たちが悪と闘う話だが、そのなかの1人、002は、ウエスト・サイドの元非行少年という設定であった。

もともと赤間さんがこの映画を観たのは、幼稚園の時というから、日本での初公開から15、6年は過ぎていただろう。映画好きの母に連れられて行った映画館で観た。真っ暗ななかに口笛の音が聴こえ、やがて映画が始まると、ニューヨークを俯瞰で捉えた映像が延々と続く。次にカメラが映し出すのは、その一角のバスケットコート。たむろしていた男たちが突然、指を鳴らして踊り出す。『ウエスト・サイド物語』のファーストシーンだ。この映像に、当時幼稚園児の

赤間さんは鳥肌が立ったのを今でも覚えているという。

画面からシャワーのように「マリア」「トゥナイト」「アメリカ」などレナード・バーンスタインの名曲が次々と流れ出し、音楽に合わせたジェローム・ロビンズの振付で、役者たちはところ狭しと歌い、踊る。それを追う斬新なカメラワーク。幼い頃に、こんなミュージカル映画の洗礼を浴びた赤間さんは、この映画をことあるごとに観直しては、ニューヨークに行きたい、ニューヨークに行ってもミュージカルをしたいという思いが強くなっていった。

ミュージカルを夢見て

今も続けているバレエを始めたのは小学校2年生の時。理由は、ミュージカルにはバレエが必要だから。母親にそう説明すると、笑っていたと





いう。

やがて彼女は、当時、昭和音楽大学に併設されていた昭和音楽芸術学院に進むが、ニューヨークに行きたいという思いは募るばかり。機会は19歳の時にやってきた。お金を貯め、学校を休学して3カ月間だけが、ニューヨークにダンス留学した。ようやく夢に一歩近づいたように感じた。アルビン・エイリー・スクール、アメリカン・バレエ・シアター、ダンス・スペース・センター(現在のダンス・ニュー・アムステルダム)の3カ所に通い、バレエ、ジャズ、コンテポラリーのレッスンを受けた。だが、彼女が思い知らされたのは、レベルの違い。本場はそれほど甘くないという厳しい現実だった。

失意の帰国。だが、まだ諦めたわけではなかった。心機一転、昭和音楽芸術学院を退学した赤間さんは、女優・仲代達矢さんが主宰する無名塾の扉を叩く。3年間の在籍期間のうち、1年間は家から通った。だが、あとの2年は仲間代さんに頼み込んで、稽古場の2階にある台本部屋に住み込んだ。三畳一間の部屋は、足がつかえて横になるのもままならない。夏はトタン屋根が猛烈な熱を含み、おまけに窓は小さく、暑くて寝不足が続く。だが、稽古はほとんどマンツーマンに近い形で学ぶことができた。

修業期間を終えた赤間さんは、その後無名塾の劇団員として、稽古と全国ツアーの日々を過ごす。それでもまだ、ミュージカルへの夢は捨てられなかった。彼女はオーディションに応募し続ける。ホリプロミュージカル『DORA』100万回生きたねこ』に応募した最大の理由は、大好きなコンテンポラリーの振付師フィリップ・ドゥクフレの演出だったから。そしてついに彼女はそこで子猫の役を射止めた。うれしかった。東京、名古屋、フランスと回って1年間が夢のように過ぎた。だが、このミュージカルに出たことで、まるで憑きものが落ちたかのように、自分が出たという気持ちはなくなった。

ある意味、彼女の青春はそこでピリオドを打ったのだろう。昨年公開の『わが母の記』で、彼女は念願の映画出演を果たした。主人公の妻の役だった。義理の母親役を演じた樹木希林さんから、女優の凄さと厳しさを教えられた。足もとにも及ばない。あと何十年かけてでもいい。少しでもあの域に近づきたいと思った。『ウエスト・サイド物語』で目指した彼女の道は、いつしか演技派女優を目指す道につながっていた。この先、彼女はどうか成長していくのだろうか。間違いなく円熟していくであろう、その道筋を楽しみに見守りたい。



—— ユーヨーク、ウエスト・サイドの非行グループ、イタリア系アメリカ人のジェット団とブルトリンゴ系アメリカ人のシャーク団は、対立を繰り返していた。あるダンスパーティーのこと。シャーク団のリーダー、ベルナルド(ジョー・チャキリス)の妹マリア(ナタリー・ウッド)は、ジェット団のリーダー、リフ(ラスタンプリンの兄貴分トニー(リチャード・ベイマ)と知り合い、恋に落ちる。一方、グループの対立は激化し、決闘へと発展する。マリアに頼まれ止めに入ったトニーだったが……。

シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を現代劇にアレンジし直した、ブロードウェイミュージカル。映画化されて、世界的に大ヒットした。



『ウエスト・サイド物語』
(コレクテズ・エディション)
DVD 発売中 2,990円(税込)
20世紀フォックス ホーム
エンターテインメント ジャパン

Pick Up 今回取り上げた映画

『ウエスト・サイド物語』

監督：ロバート・ワイズ、
ジェローム・ロビンズ
振付：ジェローム・ロビンズ
音楽：レナード・バーンスタイン
1961年公開

豪華客船

(1930年代：ブリキ、日本製)

横浜ブリキのおもちゃ博物館
館長 北原照久氏

4日間で大西洋を横断した 1930年代の豪華客船

よほど時間に余裕のある人は別として、海外旅行の交通手段といえば、飛行機ではないだろうか。だが、このおもちゃのモデルとなった船がつくられた1930年代には、大陸間の移動といえば、まず船旅が主流であった。船の名前は、舷側に記されているようにクイーン・メリー。当時の英国王妃の名前に由来することからわかるように、大英帝国の船である。もともと、このおもちゃはメイド・イン・ジャパンで、海外向けにつくられた製品である。ユニオン・ジャックのほすの国旗が、星条旗になっているのは、日本のおもちゃ職人がうっかり英国と米国を間違っつけてしまったためだろうか。

「外国のものと比べると日本製のおもちゃは格段に手が込んでいます。このクイーン・メリーにしても外国製のコピーなのですが、オリジナルよりずっと雰囲気が出ている。おもちゃはゼンマイ仕掛けで、船底についている車輪を回し地面の上を動きます。面白いのは、車軸がわざと中心から少しずらしてあるところ。そのため船はまるで波に揺られるかのように上下動を繰り返しながら進んで行くのです。おそらく、実物が就航してからその間を置かずにつくられたおもちゃでしょう」(北原氏)

クイーン・メリーがオーシャン・ライナー(大洋航路船)として、英国サウサンプトンの港からニューヨーク港へと向かっ

て処女航海を開始したのは、1936年5月27日のことである。蒸気タービンを動力とする全長311mもの大型豪華客船は、2000人を超える乗客を4日間で運ぶことができた。乗客たちは、ときに海を眺めながらプールで泳ぎ、夜ともなれば好みの酒に酔いしれ、専用のバンドが奏でる流行のジルバやブギウギで踊りつつ、退屈するいとまもないままに大西洋間の移動を終えた。そんな当時の優雅な船旅の様子に思いを馳せながらこのおもちゃを眺めていると、いまにも船から汽笛の音が聞こえてきそうだ。

(資料提供：北原照久氏)



BACK TO 1937

米国の作家、ポール・ギャリコがこのクイーン・メリーで旅したことがある。運悪く嵐に襲われ、大波のなかであわや転覆かという思いをしたことが、沈没しつつある船から脱出する小説を書くきっかけとなった。この小説が、映画化もされてよく知られている「ボセイドン・アドベンチャー」である。